

新企画

多彩なものづくりを展開する 庵治産地の「石屋の奥さま」4名

カフェエトック



美味しいコーヒーやお茶を片手に、リラックしながらおしゃべりを楽しむ新企画「カフェエトック」。今回は独自の視点を活かしたものづくりに取り組む庵治産地（香川県高松市）の「石屋の奥さま」4名にご登場いただきます。それぞれの、ものづくりに込める想い〜石屋の奥さまあるある等々、様々なテーマについて楽しく語り合っていました。

自己紹介からスタート
はじめに自己紹介をお願いします。
和泉 えっ、もう始まるんですか？ちよっと息切れが...

覚めるみたいな感じで、それくらい石が身近な環境で育ちました。
趣味といえるかわからないですが、書道は続けてやっています。もともと小さい頃に習っていたのですが、子供が習い始めたことをきっかけに、私も一緒に習いたく思っています。そこから7年くらい続けています。

和泉 事前にもらった質問事項を見て、いろいろ考えていたら、いっぱい出てきて(笑)。
ナハハハ。しっかりと考えていただき、ありがとうございます。続いて、田淵さん、お願いします。

田淵 私は岐阜県出身で、高松へお嫁にきました。趣味は、ものを作ることです。子供が小さい頃は子供服を作ったりもしていました。子育てとかに追われて、なかなか出来ませんでした。でも、買い物へ行った時とかに生地が並んでいるコーナーや洋裁コーナーとかを見ているのがすごく

楽しくて、それが今の取り組みに繋がっていると思います。それから運動するのも好きで、ソフトボールやバレーボールをしたり、山登りなどもやっています。
旦那さんも一緒に運動されるのですか？

田淵 あの人はいらないです(笑)。旦那さんも自分の趣味があって、それぞれの趣味をお互いに邪魔しないことも大事ではないかなと思っています。
好きだった有名な人は、たのきん世代なので、その中ではマッチが好きでした。最近ではナオト・インティライミも好きです。

マッチ、かつこ良かったですね！ありがとうございます。続いて、牟礼さん、お願いします。
牟礼 私は高松市の伏石の出身で、結婚を機に牟礼にきました。趣味は、田淵さんと一緒に、ものを作ることにですね。食器に絵付けをしたり転写紙を貼って模様を付けるようなことが好きで、資格も取りました。

それから30年くらい前に琴をやっていたので、子育てもあって、ずっとやれてなくて。それで、子育てがひと段落した今は和楽器の能管という笛を習っています。
和楽器をされているんですね。発表会などに出ることもあるのですか？

牟礼 これまで何度か出たことはあります。ただ、発表会の前になるとプレッシャーに押しつぶされそうになって、うわっとなってしまうのです。が、なんとか頑張っています(笑)。

好きな有名な人は佐藤健さん、藤井風さん、若い頃はローリングストーンズのミックジャガーが好きでした。
それぞれキリッとしたお顔立ちで、旦那さまにも、どことなく似ている感じもしますよね。
牟礼 いや、似てないですよ(笑)。
一同(笑)
大変失礼、いや、失礼ではないです。ありがとうございます。続いて、山田さん、お願いします。
山田 私は高松市の塩江の出身で、晶子ちゃんと同じく、結婚して牟礼にきました。ちなみに晶子ちゃんとは高校の同級生になるんですよ。子供も



田淵真澄さん
田淵石材(株)・田淵康光社長の奥さま。庵治石柄の生地「Aji stone fabric」を活かしたバッグや風呂敷、ネクタイ、ペンケース、ぬいぐるみなどを手掛けている。



和泉恵美さん
備前産 太元屋・和泉恵社長の奥さま。庵治石に囲まれた空間「aji stone interior room e Moyō」をOPEN。庵治石細目「KURO」に模様を手彫りした小物やモザイクタイル調に加工デザインした「STONE PANEL」を発表。今春から「BUNCHIN」販売開始。

幼馴染みで、仲良くしてもらっています。
そうなんですね。子供さんはお二人とも岡崎へ修業にも行っていますよね。
山田 そうなんです。それから、趣味はトールペイントをしたり、押し花を作るのが好きです。昔から、かわいい雑貨とかが好きで、工場捨てられてしまったり庵治石のコップを見ながら、何か出来たとしても「ロングバゲーション」は大好きで、「あのシーン」と言われればわかるくらい、何回も繰り返し見っていました。

なるほど！これは、旦那さん、雰囲気ありますよね！
牟礼 これは(笑)。和泉(田淵さんを見ながら) 私たちのときは何も言われなかったね(笑)。
一同(笑)
大変失礼しました(汗)。山田さん、続きをお願いします。

山田 キムタクは今も好きで、テレビ番組やドラマもずっと見てました。中でも「ロングバゲーション」は大好きで、「あのシーン」と言われればわかるくらい、何回も繰り返し見っていました。

山田 庵治石という、墓石や庭石、灯籠などに使われる貴重な石というイメージが強かったのですが、端材となるコップもたくさんあるんですね。主人から「このコップは使わないから捨ててしまおう」と聞いて、もったいないなと思ったんです。それで、この庵治石のコップとトールペイントや押し花を組み合わせて、自分でかわいいと思うものを作り出したのが始まりです。

はじめに、10年くらい前の庵治(あじ)ストーンフェアで自分が作った作品を並べさせてもらって販売してみたいんです。そして、小学校低学年の女の子が自分のお小遣いを握って買ってきてくれたんです。その時、すごく嬉しくて、それで頑張ろうと思つた気持ちも今も続いている感じですね。

今も作品は作っています。以前に買っていたいたお客様からご注文をいただいたり、外国の方へのお土産用にまとめて買っていたこともありました。
今後は「ネットでの販売」とは考えているのですが、主人も完全なアナログタイプで...。もうすぐ岡崎での修業から息子が帰ってくるので、息子に頼ろうかなと思っています(笑)。

なるほどなるほど。
続いて、牟礼さん、お願いします。
牟礼 当社の工場で納骨堂を作った時に、工場の中で仮組みをして、骨壺も入れてみようとなったんです。その時に、真っ白な骨壺を入れたのですが、「白い骨壺は綺麗なんだけど、ちよっと寂しいよね。なんとかならんかな」と、あの方が言い出しまして...。
えっ、旦那さんの声から始まったと。
牟礼 そうなんです。私が趣味で絵付けなどをしているのを知っていたので、そのような要望を、あの方があげられたので、はじめに「模様を付けてみよう」ということから始まったのですが、だんだんと、「写真は入る？」、「文字は？」と、要求が増えてきて...。
(机の上にある商品を見ながら) タイガースの帽子をかぶった旦那さんの笑顔が、なんともいい感じに見えます。
牟礼 この表情ですね(笑)。ただ、実際に作ってみたら、確かに温かみが増しているのを感じて、他にもいろいろな種類を作ってみようという気持ちになってきました。
お客様からのご注文で多いのは、骨壺に名前を入れて欲しいというものが、お墓の改葬をされる際、骨壺を出して、再度、カロートへ入れ直すことになると思いますが、誰のお骨が入っているのかわかるように、ガムテープに名前を書いて貼っておいたり、直接マジックで書くようなこともあるみたいで。ただ、それだと、年数が経つと消えてしまうことがあったり、見映えとしても、どうかということなので、名前を入れて欲しいというご注文は多いです。
もちろん、名前だけでなく、写真を入れたり模様を付けたりするなどの、いろいろなお要望に対応しています。骨壺以外では、プレートの商品も作っていて、ペットのお墓などとしてご利用いただいているケースも多々あります。

ネットでも販売している、一般の方からのご注文もありですが、石屋さんがお施主さまから相談を受けて、当社へお問い合わせをいただいているようなケースが多いと思います。それから、石材新聞さんに掲載してもらった記事を見てご注文をいただいた方も何社かいらっしゃいました。
(大きめな声で)誠にありがとうございます！引き続き、よろしくお願ひします。続いて、田淵さん、お願いします。
田淵 庵治石柄の生地づくりは、三年くらい前から始めた取り組みになります。子供が手を離れたときに、好きだった洋裁のことを勉強したいと

思って、洋裁の専門学校へ通い始めたんです。

その学校は将来、縫製の道へ進んだり、洋服などをデザインする道へと進んでいく若い子たちが多く通っているところで、その中に入って勉強させてもらいました。朝9時30分〜午後3時30分まで授業が組まれていて、その学校に3年間、通わせていただき、資格も取りました。

そこで、いろいろな生地を見る機会があった。ある時、「庵治石柄の生地ってできるんですか？」と聞いたら、「作れるよ」と教えてもらい、それで卒業後に庵治石柄の生地を作ることになったんです。

この生地を使って最初に作ったのが、お墓参りに行く時に、お線香やローソクを入れて持っているお墓参りバッグ。そこから風呂敷やマスク、ペンケースなども自分で作るようになり、ネクタイとトートバッグは裁縫工場にお願いして作ってもらったようにしました。

昨年からECサイトで販売も始めたところ、徐々にですが、購入いただけるケースも出てくるようになり、その中で、もっとも購入いただいているのは地元の石屋さんです！

牟礼 うちの旦那も庵治石柄のネクタイとトートバッグを持って出張へ行っています(笑)。

田淵 ありがとうございます(笑)。そうやって地元の石屋さんで宣伝していただいているおかげ

で、それを見た方に購入してもらえたりもあつたりして、とても感謝しています。

——では続いて、和泉さん、お願いします。

和泉 e Moyon シリーズの商品は2019年のあじストーンフェアで販売したのが始まりです。私も皆さんと同じで、子育てがひと段落したときに、何か始めたいなと思つて。

その中で、山田さんもお話していたように、お墓に使わない石がたくさんあるのですが、よく見ると綺麗な石もたくさんあつて、こういった石をお墓以外で何か使える方法はないかなと考えて、作り出したのがきっかけです。

はじめに、磨いた球体の庵治石に自分で模様を描いて、そこに小さな機械を使って彫刻してみたら、良い感じのものができて、2019年のストーンフェアをきっかけに、いくつかご購入いただけるケースも出てきました。

次に、庵治石の端材(本磨き・カサネ肌)を2〜3センチ角のモザイクタイル調にデザインしたパネルを作り、そのパネルを完成した写真をフェイスブックに載せたら、すぐに「買いたい」と言ってくる方がいらつて、急な展開で「今から値段を決めます！」みたいな感じだったんですが(笑)、とても嬉しかったです。そういった新しい人との出会いも嬉しいですね。

山田さん、旦那さんの仕事を手伝うような

ことはあるんですか？

山田 お嫁に来るときは「経理だけ」という話だったんですけど、来てみたら、「石を運ぶの手伝って」とか、今度は「クレーンを使って」とか言われるようになってきて。

主人は、普段は優しいんですけど、仕事に対してはものすごくストイックなので、仕事中は怪我をしないように、人が変わったように怖いんですよ。」「(こ)出来てないよ」とか「もっと磨かなきゃ」とか言われて、「最初と話が違つたので、もう外注に出してください」と言つたこともあります(笑)。

——「石屋の奥さまもある」かもしれないですね(笑)。

旦那さんのこと

——と、この流れの中で、それぞれの旦那さんのすごさや、旦那さんのこと、こは直してほしいなと思つたりするところを、山田さんから順番に教えてください。

山田 主人は仏像とか彫刻を作つたりするんですけど、六方切削した石に墨取りをして、それを形にすることができる技術とかデザイン力とかは、すごいと思います。四角い石がどうやって形になっていくのか、私はまったく出来ないことなので、本当にすごいことだと思つてます。

直してほしいなと思つたりするところ、仕事に乗つてくると、食事の後回しになって、連絡もなく、夜遅くまで帰つてこないん

です。私からしたら、家も近いから、一回帰つてきて、夜ごはん食べてから、仕事したらいいのにと、乗つて、たぶん、乗つてきたら、一気にやつてしまいたいんですけど、少し身体が心配だなどいふのはあります。

——なるほどなるほど。続いて、牟礼さん、お願いします。

牟礼 すごいなと思うところは、石を見て、これは「〇〇石」とか当てられることですね。私、神社やお寺を回るのが好きなんですけど、例えば、寺標の写真を撮影して「この石はなに？」とメールすると、「〇〇石」と返つてくる(笑)。それはすごいと思いますね。直してほしいなと思つたりするところは、信



牟礼晶子さん (有)ムレギ・ストーン・牟礼一人社長の奥さま。絵柄や写真などを転写した手作りの骨壺「つば美」、ペット墓などに使われるメモリアルプレートなどを手掛けている。



山田陽子さん 山田忠石材店・山田浩之社長の奥さま。庵治石を活かして製作するトルペイント、押し花をあしらったペーパーウエイトなどの作品を手掛けている。

「庵治石」を知つてもらえるきっかけに

最後に皆さんの今後の目標を教えてください。

山田 これからも作品を作つていって、庵治のストーンフェアが再開されるようになったら、ぜひ皆さんに見ていただけたらいいなと思つてます。

また、息子が帰つてきたら、ネットでも情報発信していきたいながら、国内をはじめ、海外の方たちへも、ご縁が広がつていって嬉しなと思つています。

牟礼 骨壺のことを紹介しているホームページはあるのですが、なかなか更新が出来ていない状態になってますので、その部分を少しずつ充実させていきたいなと思つています。

田淵 これからも庵治石柄の生地を活かした作品を作つていきたいと思つていますが、やっぱり一人で考えていると偏つてしまつので、いろいろな分野の人の意見をうかがいながら、アイデアを見つけていきたいと思つています。

また、出来れば、この庵治石柄の生地をアパレル業者さんに見つけてもらつて、洋服の生地などに使ってもらえたら嬉しいですね。庵治石柄の洋

服を着たモデルさんがランウェイを歩いている姿を見ることが夢でもあります。

和泉さん、大トリのコメント、よろしくお願ひします。

和泉 なかなか緊張するね(笑)。えっと、自分としては、力まずマイペースに、これからは楽しみながら、ものづくりができればいいなと思つてます。

それから(机の上に並べられた作品を見ながら)、こういった作品は、男の人は、あんまり作らないように思っています。もちろん庵治石というネームバリューがあるからその作品だとは思っていますが、まったく庵治石のことを知らない方が、こういった作品を見て、「かわいいな」「部屋に飾りたいな」と思つてくれて、よくよく話を聞いていつたら、これが「庵治石だったんだ」と気づいてもらえることが出てくるかもしれません。

こういった女性ならではのものづくりを通して、庵治石を知ってもらえるきっかけが広がつていって嬉しなと思つています。

——皆さま、素晴らしいコメントでした。今後の活躍・展開も楽しみにしております！本日は誠にありがとうございます(笑)。

和泉 取材なんて、なかなかないから緊張するね(笑)。(コーヒーを一口飲み、写真担当の記者を見つめながら、笑顔で)綺麗に撮つてくれました？変顔だけはやめてよ(笑)。

一同 爆笑